

F★★★★

ホルムアルデヒド放散等級

ターペン可溶ウレタン変性上塗下塗兼用塗料

塗装部位 鉄扉・手摺・階段等の鉄部

パワーMLタンEX

さび止め
不要

工程短縮に
最適

上塗2回で
OK

作業性良好！仕上り抜群！

標準塗装仕様

工程	塗料名と処置	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装間隔 (23℃)	希釈率 (重量%)	塗装方法
素地調整	劣化している塗膜はケレン工具で除去する。さびは電動工具やサンドペーパーなどを用いて除去し、被塗装面を清掃する。素地露出部は変性エポキシ樹脂塗料下塗を用いて補修塗りを行う。(注1) 詳細は、下記「素地調整について」を熟読してください。				
1回目	パワーMレタンEX 塗料用シンナーA	0.12～0.13	4時間以上 7日以内	2～8	ローラー ハケ
2回目	パワーMレタンEX 塗料用シンナーA	0.12～0.13	—	2～8	ローラー ハケ

(注1) 発錆や孔食が著しい箇所は、変性エポキシ樹脂塗料下塗（スーパーザウルスⅡ）を補修塗りしてください。
 (注2) 膜厚確保のため短毛ローラーは使用しないでください。
 (注3) スプレー塗装は弊社までお問合せください。

UR都市機構 保全工事共通仕様書/錆止め兼用ウレタン樹脂ペイント塗り(S-UE塗り)

工程	塗料名と処置	塗付け量 (kg/m ² /回)	工程間隔時間	希釈率 (重量%)
下地処理	S-UE-B-1	3種ケレン	4時間以上	塗料用シンナー 2～8
	S-UE-C	4種ケレン		
上塗1回目	パワーMレタンEX 錆止め兼用ウレタン樹脂ペイント	0.10～0.16 (注1)	—	塗料用シンナー 2～8
上塗2回目	パワーMレタンEX 錆止め兼用ウレタン樹脂ペイント	0.10～0.16 (注1)	—	塗料用シンナー 2～8

(注1) 塗付け量はUR都市機構の保全工事共通仕様書による。

施工上の注意事項

塗料の混合比率

- パワーMレタンEXは2液混合型の塗料です。使用の際は、所定の混合比率を守って塗装してください。
- 硬化剤は、必ず所定の硬化剤を使用してください。
- 混合比率が異なったり、専用硬化剤以外のものを使用した場合、塗膜に粘着が残るなど塗膜性能に悪影響を及ぼすことがありますのでご注意ください。
- 混合比率(重量比)ベース:硬化剤=9:1

素地調整について

- 塗装前の下地処理として、サンドペーパーマジックロン等を用いて入念な目粗しをしてください。
- ケレンカスをウエス拭きなどで十分除去してください。
- ラッカーシンナーなどを用いて被塗面の脱脂を行ってください。
- 塗替や屋外に1ヶ月以上放置された垂れ始め部品については適切な素地調整を行い、塗装してください。
- 焼付塗膜面への塗装の際は充分目粗しの上スーパーザウルスⅡを下塗としてご使用ください。

艶調整について

- 3分艶・5分艶・7分艶が可能です。塗装方法の変動、所要量のバラツキ等により、ツヤムラが生じる場合がありますので、ご注意ください。
- つや調整品の場合、吸い込み差によるむら軽減するため上塗りの1回目に「つや有り品」、2回目に「つや調整品」を推奨します。但しこの場合の塗装間隔は24時間以上(7日以内)あけてください。
- つや調整品の場合、素地の表面形状、素地の劣化度合、膜厚、乾燥条件などにより、実際のつやと異なって見える場合があります。事前の試し塗りを推奨します。

施工上の注意事項

- 希釈には必ず「塗料用シンナーA」を使用してください。その他のシンナーを使用した場合、チヂミや再溶解等が発生することがあります。また、ラッカー系旧塗膜面、耐溶剤性の乏しい旧塗膜面を塗替える場合、チヂミが発生することがありますので、事前に確認してください。
- ハケ、ローラー、塗装機の洗浄にはラッカーシンナーをご使用ください。

使用上の注意事項

下記の注意事項を守ってください。
 詳細な内容については安全データシート(SDS)をご参照ください。

■ 予 防 策

取り扱い作業中・乾燥中ともに換気の良い場所で使用し、粉じん・ヒューム・ガス・ミスト・蒸気・スプレーを吸入しないこと。必要な保護具(帽子・保護メガネ・マスク・手袋等)を着用し、身体に付着しないようにすること。
 吸入に関する危険有害性情報の表示がある場合、有機ガス用防毒マスク、又は、送気マスクを着用すること。又、取り扱い作業場所には局所排気装置を設けること。
 皮膚接触に関する危険有害性情報の表示がある場合、頭巾・えり巻きタオル・長袖の作業着・前掛けを着用すること。
 火気を避けること。静電気放電に対する予防処置を講ずること。
 火災を発生しない工具・防燥型の電気機器・換気装置・照明機器等を使用すること。
 裸火又は高温の白熱体に噴霧しないこと。
 本来の目的以外に使用しないこと。
 指定材料以外のものとは混合(多液品の混合・希釈等)しないこと。
 缶の取っ手を持って振ったり、取っ手をロープやフックで吊り下げたりしないこと。
 取り扱い後は、洗顔、手洗い、うがい、及び、鼻孔洗浄を十分行うこと。
 使用済みの容器は、火気、溶接、加熱を避けること。
 本品の付いた布類や本品のかす等は水に浸して処分すること。

■ 対 応

目に入った場合：直ちに、多量の水で洗うとともに医師の診察を受けること。

- ベースと硬化剤を混合した塗料は8時間以内(23℃)にご使用ください。調合後、長時間経過した塗料を使用した場合、塗膜性能が低下する場合があります。
- 開缶後はできるだけ直ちに閉栓してください。長時間、空気にふれると増粘が早くなる傾向があります。使用後の塗料は、必ず密閉して冷暗所に保管してください。
- 乾燥過程で水(降雨)などの影響を受けると白化することがあります。この場合は軽く表面を研磨するなどの処置をしてください。
- 上塗に強溶剤系塗料は使用しないでください。
- 所要量は、被塗物の形状や素材、塗装方法、環境などによって増減する場合があります。
- 塗装仕様に記載の塗装間隔は、屋外で気温23℃の条件を想定しています。低温時や屋内等で十分な換気ができない場合は、塗装間隔が長くなる場合がありますので、ご注意ください。
- 気温5℃以下、湿度85%以上の環境では塗装を避けてください。また、強風時や降雨、降雪、結露が予測される場合も塗装を避けてください。
- 黄・赤・青・緑系の汚れた色で仕上げる場合は、隠蔽性を上げるため、1層目に共色で塗装して仕上げることをお奨めします。
- エマルジョンパテを使用しないでください。剥離の原因となります。
- 完全に乾燥するまでには時間を要しますので、カウンター、床面等への塗装は避けてください。
- 調色には指定原色を使用してください。また、調色は乾き色に合わせてください。
- 使用前に塗料を均一にかき混ぜてください。薄めすぎは隠蔽力不足や光沢不足の原因となるだけでなく、流れやすくなるために、仕上り不良の原因ともなりますので、ご注意ください。流れた部分は色が変わる場合がありますが、この場合は、直ちに補修塗りを実施してください。
- 被塗面に、油、ワックス汚れ等が付着している場合は、付着不良の原因になりますので必ずシンナーを含ませたウエスで拭き取ってから塗装してください。
- 異なる色相を塗り重ねる場合は、2回の上塗りを塗装する際に1回の上塗りを侵してブリードする場合がありますのでご注意ください。
- スチールドアなどで、ゴム(ワッキン)と接触する部分は、粘着することがありますので、塗装は避けてください。
- シーリング面への塗装は極力避けてください。汚染や粘着、ワレの原因となります。やむをえず塗装する場合には、ノンブリードタイプのシーリング材を用いることとし、「シーブラ」または「マルチタイルコンクリートプライマー-EPO」をハインターとして挟むことで不具合を軽減することができます。
- 汚れ、傷などにより補修塗りが必要な場合がありますので、使用塗料の控えは必ずとっておき、同一塗料、同一ロット、同一塗装方法で補修塗装をしてください。

皮膚に付着した場合：直ちに拭き取り、石けん水で洗い落とし、痛みや外傷等がある場合は、医師の診察を受けること。
 吸入した場合：空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けること。
 飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。
 漏出時や飛散した場合は、砂、布類(ウエス)等で吸い取り、拭き取ること。
 火災時には、炭酸ガス、泡、又は、粉末消火器を用いること。

■ 保 管

指定容器を使用し、完全にふたをして湿気のない場所に保管すること。
 直射日光、雨ざらしを避け、貯蔵条件に基づき保管すること。
 子供の手の届かない場所に保管すること。又、関連法規に基づき適正に管理すること。

■ 廃 棄

本品の付いた布類や本品のかす、及び、使用済み容器を廃棄するときは、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処分すること。(排水路、河川、下水、及び、土壌等の環境を汚染する場所へ廃棄しないこと。)

■ 施工後の安全

本製品は揮発性の化学物質を含んでいますので、塗装直後の引渡しの場合は、施主様に対して安全性に十分に注意を払うように指導してください。例えば、不特定多数の方が利用される施設などの場合は、立看板などでベンキ塗り立てである旨を表示し、化学物質過敏症ならびにアレルギー体質の方が接することのないようにしてください。